

第36回 栃木県営都市公園写真コンクール 審査会 【講評】

	賞	受賞者名	タイトル	撮影公園	審査員長コメント
選	最優秀賞	菅谷 優成	兄弟仲良し	みかも山公園	屋外で元気いっぱい楽しそうに公園で遊んでいる子どもの表情がよく表れており、見ている側にも嬉しさやほっこりとした気持ちを与えてくれる作品。 背景は、季節感を感じさせるだけでなく、周りがにぎわっていて明るくて元気いっぱいな声が写真から聞こえてきそうな力強さもある1枚である。
	優秀賞	田崎 友美子	パパ!あれなあに?	栃木県中央公園	家族で遊びに来て、色々な時間があることを想像させる1枚。子どもがだんだんと大きくなってきて、父親とも一緒に過ごす時間が増え、母親がその時間を温かく後ろから見守っている感じが伝わってくる。色づいてきた紅葉とまだ緑の部分と、季節の移り変わりがはっきりと見えており、その中に2人の親子の姿がとても印象的な作品である。
	優秀賞	裏野 千華	耳をすませば... 散歩を色どる音色	栃木県中央公園	公園というのは、子どもだけでなく、様々な年齢層の方が、それぞれの楽しみ方があることを色々と感じさせる作品。 趣味で音楽を楽しんでいる人を、写真が趣味である人が撮影している、そんなことが想像できる。横には会話を楽しんでいる人もいて、色んな公園での楽しみ方があることが、この1枚にぎゅっと詰め込まれている。
評	優秀賞	佐藤 絵美	親子で競争!	鬼怒グリーンパーク	秋というのは暖色系である赤色がとても映えるため、夕方に撮影するととても雰囲気がある。親子で一緒に、はしゃぐ姿がとても印象的な1枚。暖色であるゆえに、ほっこりとした感情移入がしやすく、見ている方に温かい気持ちを与える作品。手前がぼけていることで、下からの視線的誘導もよくできている。
応募作品 総評					ここ数年はコロナ禍で、人物を対象とした作品が少なくなった印象を受けていたが、今回はとても人物の写真が多かった。 新型コロナウイルス感染症もある程度落ち着いてきて、外に出かける機会も多くなり、写真を撮ることが増えたと思われる。 スマートフォンを持って撮影している保護者の方も多く見かけるようになり、それが今回の作品によく表れていた。

審査員長	サトーカメラ株式会社 写真講師	佐藤 秀明
審査員	栃木県公園事務所 所長	吉成 克弘
審査員	公益財団法人栃木県民公園福祉協会 理事長	熊倉 一臣